教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3 単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 ビジネス・生活福祉コース	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
科目の目標	本コースは、就職・進学と進路がさまざまであるのが特徴である。そこで、社会に出る時に必要である、漢字力・国語常識に加え、国語総合で学んだ読解・鑑賞・読書の方法の習得を目指し、ものの見方、考え方を深めることが目標である。				
学習内容の概　　要	三省堂「明解　現代文B」を授業の基本としつつも、漢字・国語常識については、尚文出版「国語必携パーフェクト演習」を用い、読解力・表現力・国語常識を養う。				
学習方法	現代文の読解力を養うために、授業で板書をしながら、生徒に理解させるようにする。また、国語常識・漢字の力を養成するために、「国語必携パーフェクト演習」を用いて、書く力、読む力のスキルアップをする。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については観点別評価を踏まえ評価する。				
使用教材	三省堂「明解　現代文B」 尚文出版「国語必携パーフェクト演習」 尚文出版「常用漢字クリア」 その他自主教材				
その他					

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	文字と語句 随想一	基本熟語・難読語（P24・P25） 待つということ	3 6	頻出の漢字の読みに慣れるために、繰り返し漢字演習を行う。 異文化について書かれた文章を読み、人と人との関わりについて考えを深める。	
5	文字と語句 随想一	難読語・四字熟語（P50・51） 春	3 6	漢字演習と共に、小テストを通じて、漢字の読解を徹底する。 人間と自然との関係について考えを深め、自然のなかで生きる意義を考える。	中間考査
6	文字と語句 小説（一）	特殊な漢字・反対語・同音異義語（P76・77） 水かまきり	4 8	重要な漢字を書き取ることが出来るように、繰り返し演習を行う。 擬声語などで表現された主人公二人の微妙な心を動きを理解する。	期末考査
7		表現問題（P82～P89）	6	書き取りの演習と共に、小テストを行い学力を定着させる。	終業式
8	文字と語句	表現問題（P90・91）	3	四字熟語や、同義語・対立語などを、内容を説明しながら演習する	始業式
9	小説（一） 文字と語句	神様探索隊 表現問題（P92～P97）	8 4	登場人物がそれぞれの場面でどのような思いで行動しているか理解する。 言葉の由来を確かめながら、演習を行い、定着を目標とする。	
10	評論一	コンコルドの誤り 進学・就職試験対策	6 3	「コンコルドの誤り」に象徴されているものが何であるかを理解する。 過去問等を行い、試験対策に繰り返し練習をする。特に漢字を復習する。	中間考査
11	随想二	創造する力 進学・就職試験対策	6 3	人間とチンパンジーとの比較により見いだせる人間独自の特徴を捉える。 過去問等を行い、試験対策に繰り返し練習をする。特に熟語を復習する。	期末考査
12	小説二	こころ	6	人と人との間に横たわる闇と孤独、エゴイズムを鋭く見つめている点を理解する。	
1	小説二	こころ	9	「私」の心情・思考を読み取り、人間の心や孤独、通じ合うことなどについて理解を深め、自分なりに主題に対する考えを深めていく。	卒業考査
2		進学・就職対策　自主教材	12	入学試験対策を行うと共に、就職の生徒に対して語彙を増やし、文章が作成できるように適時指導していく。	
3					

教科名	地歴科	科目名	世界史A	単位数	2単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 情報総合科	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
科目の目標	世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	○文明のおこり　○諸地域世界の形成と交流　○一体化に向かう世界				
学習方法	教科書・ノート・地図・資料集の活用をベースに基礎的知識を学び、世界の歴史の流れや各文化の特色、現代世界の形成の歴史的過程を把握させる。				
評価の観点・評価方法	基礎的知識を身につけるとともに、世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする姿勢に着目したい。 定期考査・主体的な学習への取り組み・出席状況などを総合的に評価する。				
使用教材	山川出版社「改訂版世界の歴史」				
その他					

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	第1部　世界の一体化と日本 第1章　世界の諸文明 1　東アジア世界Ⅰ	東アジアの風土と人々、中国文明の誕生、秦・漢代、北方民族の侵入と隋・唐の統一	2 2 2	文明化を進める日本にとっての最初のモデルとして、隋・唐帝国の構造・文化に関心を持つことが出来る。	入学式
5	2　東アジア世界Ⅱ	東アジア世界の形成、東アジア世界の変容、北方民族と中国の一体化	2 2 2	「朝貢の使者」の図版から、様々な地域から使者が来訪する中華帝国の広がりについて関心を持つことが出来る。	中間考査
6	5　西アジア世界Ⅰ 6　西アジア世界Ⅱ	西アジアの風土と人々、古代の大帝国、文字の誕生、一神教のふるさと イスラーム教の誕生、カリフの時代、トルコ系・モンゴル系の人々の登場。	2 2 2 2	人類最古の農耕文明が形成された西アジア世界の巨大な歴史的意義に気付くことが出来る。 アフリカから東南アジアに及ぶ地理的広がりの認識から、ムスリムの支配領域としての「イスラーム世界」の歴史的由来に関しての主体的な関心を持つことが出来る。	
7	7　古代地中海世界 8　ヨーロッパ世界Ⅰ	ヨーロッパの風土と人々、古代ギリシャ世界、ヘレニズムの誕生、古代ローマ帝国 ゲルマン人の国々、フランク王国、封建社会の形成、ビザンツ帝国（東ローマ帝国）	2 2 2	近代世界にとっての「古典古代」としてのギリシャ諸都市国家やローマ帝国の歴史的意義について考察できる。 西欧の中世社会を、封建的主従関係と領主制の2層構造として、立体的に考察できる。	期末考査 終業式
8	9　ヨーロッパ世界Ⅱ	都市と商業の復活、ローマ教会の発展、十字軍、王権と集権国家の成長	2	教科書の年表などを用いて、叙任権闘争を始めとする 聖俗の権力間の争いを整理し、その背景について多面的に考察できる。	始業式
9	第2章　世界の一体化の始まり 1016世紀の世界と一体化の始ま 11　明代の東アジア 12　清代の東アジア	ユーラシアの繁栄、アジアの通商、香辛料と銀 明の建国と発展、近接諸国との動向、北虜南倭と明の衰退 清の統合東アジア世界の拡大、清代の社会、東アジアとヨーロッパの文化交流	2 2 2 2	16世紀の世界にあっては、物質的な豊かさや高度な精神文化の中心は、繁栄するアジア諸国にあったという点に注目できる。世界の一体化に向かう動きが始まったヨーロッパと、明を中心とした国際秩序に向かうヨーロッパを対比的にみることが出来る。ヨーロッパがアジアに進出を始めたころ、アジアでは清という強大な帝国が成立し、繁栄していたことに注目することが出来る。	
10	15　大航海とアメリカ征服 16　新しい時代の始まりとルネサンス 17　宗教改革	スペイン・ポルトガルの海外進出、アメリカの征服・植民地化 新しいヨーロッパ、イタリアとネーデルラント、科学技術、戦争の時代 信仰の刷新、ルターと諸侯、カルヴァンとユグノー、イギリス国教会、カトリックの改革	2 2 2 2	アメリカ先住民の国家・文明が、少数のヨーロッパ人の手でもろくも滅ぼされてしまったなぜか、その原因を考察できる。近代世界の開幕を世界観・人間観を含む文化・思想の上で告げるものとしてのルネサンスの歴史的意義に気付くことが出来る。	中間考査
11	18　スペインの時代からオランダの時代へ	スペインの黄金時代、オランダの繁栄、17世紀の戦乱、主権国家体制。	2 2 2 2	新大陸のもたらした富が、スペイン世界帝国の繁栄の 基礎をなしたことを理解し、また、スペインが没落してオランダが派遣を握った要因を多面的に考察できる。	
12	19　絶対王政と議会王政	フランス議会王政、イギリス議会王政	2 2 2	17世紀イギリスの2つの革命について、その命名の理 由を明らかにすることを通じて、両者の性格の違いの相違についても理解できる。	期末考査 終業式
1	20　東ヨーロッパの専制 21　大西洋経済	東ヨーロッパの社会と政治、プロイセンとオーストリア、ロシア帝国 ヨーロッパ経済の成長、大西洋の三角貿易、西欧を 中心とする経済	2 2 2	オーストリアやプロイセンなどの宮廷とモーツァルトら の音楽家の関係に興味を抱くことが出来る。 三角貿易と呼ばれる循環貿易の一環についての理解を深める。	始業式 卒業考査
2	第三章　近代の世界 22　啓蒙とアメリカの独立	啓蒙の世紀、革命の時代、アメリカ独立革命。	2 2 2 2	啓蒙思想誕生の背景を多面的にとらえ、その後のヨーロッパにあたえた影響を客観的に整理できる。	
3	1年間のまとめ		2	1年間の学習のまとめをおこなう。	卒業式 終業式

教科名	数学	科目名	数学演習	単位数	2 単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 情報総合科	履修形態	必修	授業形態	学級単位/ 一斉授業
科目の目標	進学や就職など多岐にわたる進路希望に対応し、社会生活を送る上で必要となる数学的考え方と基礎的な知識の習得および技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。				
学習内容の概要	1年生のときに学習した数学Ⅰ、数学Aの復習を中心に、様々な問題を通して数学Ⅰ、数学Aの知識の習得と技能の習熟の徹底を図る。また、就職試験などに出題される問題演習で実践的な力を身に付ける。				
学習方法	基礎的な問題から、就職試験レベルのくせのある問題まで様々な問題を自らが解答することにより知識の習得と技能の習熟の徹底を図る。また、教科書の説明を通じて基礎的な知識を習得し、練習問題を解くことにより内容理解と習熟の徹底を図る。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。 評価については、観点別評価を踏まえるものとする。				
使用教材	最新　数学Ⅰ、A（数研出版）・新編実用数学セミナー				
その他					

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	就職試験対策	就職試験問題集を自らが解き、解説と比較検討し、数学Ⅰ、数学Aの理解を深める。	2 2 2	各自購入している就職試験問題集を独力で解答することにより、数学Ⅰ、数学Aの基礎を理解すると共に、解答、解説を通して、より深く数学Ⅰ、数学Aの知識の習得と技能習熟を図る。	始業式
5			2 2 2		中間考査
6			2 2 2 2		進路合宿 期末考査
7			2 2 2		終業式
					夏期補習
8			2		始業式
9			2 2 2 2		
10			2 2 2 2		中間考査
11			2 2 2 2		期末考査
12			2 2 2		終業式
1			2 2 2		始業式 卒業考査
2			2 2 2 2		
3					卒業式

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科	履修形態	必修	授業形態	単独
科目の目標	自然科学の地学分野における一般的な教養を身に付けさせることを目標とする。				
学習内容の概要	地球を取り巻く自然環境と地球が属する太陽系または宇宙について考察する能力と態度を身に付けさせる。				
学習方法	教科書に沿って進め、視聴覚教材を利用しながら、教科書の内容を理解させる。				
評価の観点 ・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況等で評価する。				
使用教材	第一学習社「地学基礎」, 第一学習社「ネオパルノート 地学基礎」				
その他	**生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出をさせる。**				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	1編 宇宙における地球	宇宙の構成 太陽の誕生と将来 太陽系の構造 生命の惑星・地球	17	ビッグバンから始まる宇宙の進化と、それに伴ってできた恒星や銀河について学ぶ。 また、私たちが住む地球を含めた太陽系の成り立ちと、太陽や諸惑星の特徴を理解する。	始業式
5					中間考査
6	2編 活動する地球	地球大きさ 地球の内部構造 プレートの運動 火山の分布 地震のしくみ	20	私たちの住む地球の構造を理解し、地球の表層・内部では様々な変化がおきていることを学ぶ。 地震のメカニズムや地震災害、火山の種類と噴火によってできた火成岩について学ぶ。	期末考査
7					終業式
8					始業式
9	3編 移り変わる地球	地層の形成 化石 地質時代とその区分	20	地球表層環境と生物の進化との関わりを学ぶ。 また、地層の形成過程や地質構造とその変化について理解を深める。	
10					中間考査
11	4編 大気と海洋 5編 地球の環境	大気の構成 地球の熱平衡 大気の大循環 海洋の大循環 地球の環境 日本の自然環境	15	地球環境の変動や自然災害について、これからの地球環境の保全に向けた取り組みや代替エネルギーについて学ぶ。	期末考査
12					終業式
1					始業式 卒業考査
2					
3					卒業式

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3 単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科男子	履修形態	必修	授業形態	合併クラス単位
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	運動やスポーツの基礎・基本や安全について、しっかり学習し、自分で計画、工夫していける能力を高める。				
学習方法	陸上・マット運動・サッカーを通して、グループ活動の中で協調性を養う事で、関心や意欲を高めるとともに互いに協力して運動ができるようにする。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも実技試験と平常点で評価する。平常点20点は授業態度や意欲、出席点で評価する。				
使用教材					
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	陸上	跳躍	3 3	自己の能力に応じた課題を目指し計画的な練習の仕方を工夫する。	始業式
5		投てき	3 3 3 3		中間考査
6		競走	3 3 3		期末考査
7		跳躍・投てき・競走	3 3	測定。	終業式 夏期補習
8	バレーボール		3	パスの種類を覚える。	始業式
9		パス	3 3 3 3	（オーバーパス、アンダーパス） 正しいパスの仕方を学ぶ。	学校祭
10		ドリブルシュート	3 3 3 3	サーブの種類を覚える 正しいアタックの仕方を覚える	中間考査
11		ゲーム	3 3 3	協調性を高める学習をする。	期末考査
12	バスケットボール	パス	3 3 3	パスの種類を覚える。 正しいパスの仕方を学ぶ。 ルールを学ぶ。	終業式
1		ドリブルシュート	3 3 3	ドリブルとシュートのタイミングに注意しながら練習する。	始業式
2		ゲーム	3 3 3	協調性を高める学習をする。	入試 期末考査
3					終業式

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3 単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科女子	履修形態	必修	授業形態	合併クラス単位
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概　　要	運動やスポーツの基礎・基本や安全について、しっかり学習し、自分で計画、工夫していける能力を完成させる。				
学習方法	陸上・バドミントン・バスケットボールを通して、グループ活動の中で協調性を養う事で、関心や意欲をより高めるとともに常に互いに協力して運動ができるようにする。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも実技試験と平常点で評価する。平常点20点は授業態度や意欲、出席点で評価する。				
使用教材					
その他					

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	陸上	跳躍	3 3 3	自己の能力に応じた課題を 目指し計画的な練習の仕方を 工夫する。	始業式
5		投てき	3 3 3 3		中間考査
6		競走	3 3 3 3		期末考査
7		跳躍・投てき・競走	3 3 3	測定。	終業式 夏期補習
8	バドミントン	サーブ	3	サーブの種類を	始業式
9		乱打	3 3 3 3	覚える 回数を決めて連続で 打ち合えるようにする。	学校祭
10		スマッシュ ゲーム	3 3 3 3	スマッシュの種類を覚えて、 思い切り打てるようにさせる。 協調性を高める学習をする。	中間考査
11			3 3 3		期末考査
12	バスケットボール	パス	3 3 3	パスの種類を覚える。 正しいパスの仕方を学ぶ。	終業式
1		ドリブルシュート	3 3 3	ドリブルとシュートのタイミング に注意しながら練習する。	始業式
2		ゲーム	3 3 3 3	協調性を高める学習をする。	入試 期末考査
3					終業式

教科名	外国語(英語)	科目名	英語演習Ⅱ	単位数	2単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 情報総合科	履修形態	必修	授業形態	学級単位
科目の目標	最も基本的な中学校の英語の復習からスタートし、高校の英語力も身につけることができるようにする。				
学習内容の概　　要	異文化理解・国際理解を中心テーマに、地球環境問題、国際協力、比較文化、言語と民族、外国の高校生活、物語など、多彩な題材をとりあつかう。				
学習方法	生徒の実態に応じて，問題集やプリントなど補助教材を併用し、中学校における基礎的な学習事項を復習整理し、習熟するように指導する。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	ATLANTIS English Conversation, Workbook 1 (CHEERS) TRY YOUR BEST 基本英文法 WORKBOOK (浜島書店)				
その他					

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	ATLANTIS English Con. Lesson 1 TRY YOUR BEST	I like meeting new people. (不定詞 VS 動名詞) 文の要素	2 2 2	重要表現・語彙・文法の確認／素早く内容をつかむ／英語で意見を言う・聴く・書く	始業式
5	ATLANTIS English Con. Lesson 2 TRY YOUR BEST	I usually wake up at 7:00. in the morning (頻度に関する副詞) 副詞、形容詞	2 2 2 2	重要表現・語彙・文法の確認／素早く内容をつかむ／英語で意見を言う・聴く・書く	中間考査
6	ATLANTIS English Con. Lesson 3 TRY YOUR BEST	We're going to take a trip. (be+going to を使った未来形) 基本時制3、完了時制1	2 2 2 2	重要表現・語彙・文法の確認／素早く内容をつかむ／英語で意見を言う・聴く・書く	期末考査
7	ATLANTIS English Con. Lesson 4	How about going to party? (提案の基本形)	2 2	重要表現・語彙・文法の確認／素早く内容をつかむ／英語で意見を言う・聴く・書く	終業式 夏期補習
8	TRY YOUR BEST	助動詞3	2		始業式
9	ATLANTIS English Con. Lesson 5.6	You should take off your shoes. (アドバイスの基本型) We are not allowed to color our hair. (許可の基本型)	2 2 2 2	重要表現・語彙・文法の確認／素早く内容をつかむ／英語で意見を言う・聴く・書く	
10	ATLANTIS English Con. Lesson 7 TRY YOUR BEST	How was your vacation? (過去形 was/were/did) 動詞2、基本時制2	2 2 2 2	重要表現・語彙・文法の確認／素早く内容をつかむ／英語で意見を言う・聴く・書く	中間考査
11	ATLANTIS English Con. Lesson 8.9	I used to live in America. (I used to と過去形) What were you doing on X'mas Eve? (過去進行形、while / during)	2 2 2 2	重要表現・語彙・文法の確認／素早く内容をつかむ／英語で意見を言う・聴く・書く	期末考査
12	ATLANTIS English Con. Lesson 10 TRY YOUR BEST	Who is the funniest person in your shool? (比較級／最上級) 比較1～3	2 2 2	重要表現・語彙・文法の確認／素早く内容をつかむ／英語で意見を言う・聴く・書く	終業式
1	ATLANTIS English Con. Lesson 11 TRY YOUR BEST	How long have you played the piano? 完了時制1	2 2 2	重要表現・語彙・文法の確認／素早く内容をつかむ／英語で意見を言う・聴く・書く	始業式 卒業考査
2	ATLANTIS English Con. Lesson 12. TRY YOUR BEST	I wish I were rich. (wishを使った仮定法) 仮定法1	2 2 2 2	重要表現・語彙・文法の確認／素早く内容をつかむ／英語で意見を言う・聴く・書く	
3					卒業式

教科名	芸術	科目名	書道Ⅰ	単位数	2単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科	履修形態	必修	授業形態	実習
科目の目標	書道の幅広い活動を通し、書を愛好する心情を育てるとともに 感性を豊かにし、基礎的な能力を伸ばし、表現と鑑賞の能力を高める。				
学習内容の概　要	基本的な練習の中に コンクール、硬筆書写検定などを取り入れ、幅広い体験を目指す。				
学習方法	生徒の個性が活きるよう個々のレベル関心に応じて添削時の一対一の会話、ふれあいを重視し定着を図る。				
評価の観点・評価方法	書への関心、意欲、態度、発想や創造的な表現の技能・能力などを勘案したものであるように配慮する。 規定に従い、1学期・2学期・3学期とも考査点と平常点と出欠点で評価する。(定期考査は行わないので、毎回の清書を考査とみなす。) 書道の場合、平常点を重視したい。				
使用教材	教育図書 書Ⅰ				
その他	伯耆大山駅へ展示協力				

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	書へのいざない 漢字の書(楷書)	◎書写から書道へ ◎九成宮醴泉銘	6	文房四宝について 臨書について 基本的な用筆を学びながら様々な書風を理解、表現する。	始業式
5	漢字の書(楷書) 硬筆の学習	◎雁塔聖教序 ◎理論 部首名、書き順他	10	伝統に根差した技法を習得する。 基本の部首、書き順を学びながら文字の成り立ち、変化を理解する。	中間考査
6 7	硬筆の学習 漢字の学習(楷書)	◎実技 ひらがな、楷書の基本 行書の書き方他 ハガキ、ポスターの書き方 ◎顔氏家廟碑 ◎牛橛造像記	13	小論文、作文、履歴書がきれいに書けるよう、基本的な文字の書き方を習得する。 3級取得目標。 作品の生まれた背景、風土、民族性、個性など 筆者と作品について考える。様々な書風を理解し、幅広い表現を学ぶ。	期末考査 終業式
8	鑑賞及び創作の学習	◎創作	3	今までの古典をもとに、自分で考え自由に表現してみる。	始業式
9	漢字の書 (行書)	◎蘭亭序 ◎風信帖	10	行書の特徴を 結構、用筆、運筆から理解する。「三筆」についても説明。	
10	漢字の書 (隷書) 漢字の書 (篆書)	◎曹全碑 ◎石鼓文 ◎競書大会	16	今までとは全く違う筆遣い(蔵鋒)を学び、芸術性を養う。 隷書の書体が色々なところで使わわれていることを理解する。	中間考査
11	仮名の書 生活の中の書	◎いろは歌より ◎年賀状の書き方 ◎筆ペン講座 (実用書)		仮名の歴史、基本など「いろは歌」から学ぶ。 御祝、中元など生活の中の身近にある書への関心を高める。	
12	鑑賞及び創作の学習	◎書初め大会	5	大きな紙による真剣な取り組みで刺激を与える。	期末考査 終業式
1	漢字かな交じりの書 まとめ	◎創作 ◎書道歴の学習	9	集の表紙制作。 1年間分の作品を自分で作った「こより」で綴じ、自己評価する。 プリントで、1年間のまとめをする。	始業式 卒業考査
2					
3					卒業式

教科名	商　業	科目名	総合実践	単位数	5　単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 ビジネス・生活福祉	履修形態	必修	授業形態	一斉授業 クラス単位
科目の目標	この科目は広く商業科で学んだ知識や各種の技術を実際に自分達で実践して見るという実習形式の授業で 各科目で学んだ学習内容の定着を図ると同時に、挨拶・言葉遣いを始め・自主性・積極性・責任感・協調性など 就業（社会生活）の基本を身に付ける事を目標としている。				
学習内容の 概　　要	各自がペアを組んで模擬の会社を設立し、売買取引や経費の支払いなどそれに付随する取引をPC上で行い、 それを各自で会計処理し決算まで協力して行う。				
学習方法	システム・フューチャー社製の総合実践授業支援ソフト、「スーパー実践くん」を使用し、見積依頼書 から代金決済まで、また、経費の支払いや付随する業務を体系的に学習し、PCで会計処理を行い、 決算に至る。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、各学期は中間・期末の考査点と一部、考査に代替する提出課題及び平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度（服装・言葉遣い含む）・意欲・提出物の状況（忘れ物の有無を含む）・理解度の 4項目で評価する。				
使用教材	一学期　ア．教科書（実教出版・スーパー実践君4WEB）・補助プリント 二学期　イ．教科書（実教出版・スーパー実践君4WEB）・補助プリント ウ．PPF説明ファイル				
その他	課題の提出は単位認定の必修事項とする 一部のクラスで研究授業を実施することがある				

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	総合実践について 概要説明 導入授業	学習に当たっての目標・注意事項 授業を行うに当たっての一般的な 知識や心構えの指導	5	ペアを組んだ実習授業の意味 を理解させると共に、必要な 事柄について、指導する。	始業式
5	機器の使用説明 同時同業取引	機械やソフトウェーの使用説明 取引の説明後に取引	15	機械やソフトの使い方を覚える 取引の流れについて覚える	中間考査
6	同時同業取引 決算指導	商品売買・他取引 決算の意味や仕組み等事前指導	14	実際に教科書に従い取引を行う 決算について意味を理解する	
7	決算指導① 課題提出指導① 進んだ学習	決算諸表の作成 課題の整理などファイリング指導 模擬実践授業の一部展開	9	決算処理を行う 提出に向けて課題を整理する 模擬実践の一部を学習する	期末考査 終業式
8	決算指導① 課題提出指導① 進んだ学習	決算諸表の作成 課題の整理などファイリング 模擬実践授業の一部展開 機器の説明・調整等	4	続いて決算処理を行う 続いて提出に向けて課題を整理 模擬実践の一部を学習する	始業式
9	配置転換（ペア変更） 模擬取引導入指導	企業配置・ペア変更 模擬実銭の仕組み説明 機器の使用に慣れる	15	ペアを変え協力・協調させる 模擬実践取引の流れを 理解させる	
10	模擬取引	模擬実践取引 機器の使用に慣れる	16	模擬実践取引を行う	中間考査
11	模擬取引	模擬実践取引 機器の使用に慣れる	13	模擬実践取引を行う	
12	決算指導① 課題提出指導① テレビ電話授業の利用	決算諸表の作成 課題の整理などファイリング指導 機器の使用に慣れる	11	決算処理を行う 提出に向けて課題を整理する テレビ電話を使用する	期末考査 終業式
1	決算指導② 課題提出指導② 就業前指導	決算諸表の作成 課題の整理などファイリング指導 就業（社会生活）の心構え等指導	11	続いて決算処理を行う 続いて提出に向けて課題を整理 ビデオ学習などで、社会に出る 心構えを知る	卒業式 期末考査

教科名	商　業	科目名	課題研究 PC会計Ⅱ	単位数	3　単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 ビジネスコース	履修形態	必修	授業形態	一斉授業 選択科目
科目の目標	この科目は現代社会の会計現場にマッチした、会計ソフトを使用して見るという実習形式の科目である。 1年次で学んだ簿記学習と2年次でのPC会計の定着を図ると同時に、会計ソフトへの習熟を目標とする。				
学習内容の 概　　要	実際の企業の現場で使われている会計処理ソフトウェアを使い、コンピュータによる会計処理を学習する。 全国経理教育協会他のPC会計やPCに関する検定取得を目指す				
学習方法	市販の会計ソフトである「弥生会計」の学校教育向けパッケージ弥生スクールを導入し、最新の環境の会計ソフトウェアを使用し、コンピュータ会計による起票・記帳・決算の流れを学習する。 到達目標として各種の検定を受検する				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、各学期は中間・期末の考査点と一部、考査に代替する課題及び平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度（服装・言葉遣い含む）・意欲・提出物の状況（忘れ物の有無を含む）・理解度の4項目で評価する。				
使用教材	一学期　ア. 教科書・問題集（オリジナル教材） 二学期　イ. 教科書・問題集（オリジナル教材） 三学期　ウ. 教科書・問題集（オリジナル教材）				
その他	全国経理教育協会　コンピュータ会計検定能力検定　3級より段階的にを受検を目指す 授業の一部で研究授業を実施することもある 提出課題の一部にレポートを課す事もある 課題の提出は単位認定の必修事項とする(検定合格者は免除・検定料未納者は課題不合格とみなす)				

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	概要説明 導入授業	学習に当たっての目標・注意事項 授業に当たっての一般的な 知識や心構えの指導 簿記・PC会計の簡単な復習	6	機械やソフトの使い方を覚える 起票・記帳の仕方について 覚える	始業式
5	ソフトの使用説明 企業活動と会計処理 会計ソフトの操作	ソフトウェアーの使用説明 テキストによる解説の後, 基本設定を行う	10	起票・記帳 補助勘定科目について理解する	中間考査
6	会計ソフトの操作 記帳演習	テキストによる解説の後、 記帳練習を行う	12	集計処理について理解させる 検定対策（勉強）を行う	
7	企業の業務と 会計処理 記帳演習	テキストによる解説の後、 記帳練習を行う	6	起票・集計処理について 理解させる 検定対策（勉強）を行う	期末考査 終業式
8	企業の業務と 会計処理 記帳演習	テキストによる解説の後、 記帳練習を行う	2	1学期の遅れがある者は 調整する	始業式
9	記帳演習 データの入力・集計	テキストによる解説の後、 記帳練習を行う	12	主に起票・記帳練習 可能であれば検定模擬問題 に入る	
10	記帳演習 データの入力・集計 全経試験対策	テキストによる解説の後、 記帳練習を行う 試験対策（コンピュータ会計3級）	12	総合的な起票・記帳演習	中間考査
11	記帳演習 データの入力・集計 全経試験対策	テキストによる解説の後、 記帳練習を行う 試験対策（コンピュータ会計3級）	12	総合的な起票・記帳演習	
12	記帳演習 検定受験指導	テキストによる解説の後、 記帳練習を行う 日商PC会計検定初級の問題	8	検定指導(模擬問題)を行う 受験については可能であれば コンピュータ会計検定2級を受験	期末考査 終業式
1	コンピュータ会計の 定着指導	コンピュータ会計の振り返り	3	検定も疑問題を参考に コンピュータ会計の 定着指導を行う	始業式 卒業考査
2					
3					

教科名	商業	科目名	経済活動と法	単位数	2単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 ビジネスコース	履修形態	必修	授業形態	分割授業
科目の目標	法律、条文が生かされる事例を、教師が創作し、それに基づく授業の展開で生徒の興味関心を育てる。新聞や雑誌の記事を教材として活用し、学習内容の具体性を伴う展開を心がける。				
学習内容の概　要	授業を進めた後、中間、期末一週間前に、プリント5～6枚を配布し、生徒個々人に、黒板に答えを書かせて、正解をしその中からテスト問題を作成。				
学習方法	夏、冬休みに、法律（事件）に関する記事を新聞から切り取り、スクラップにして提出。月一回、班毎に学習した内容の興味を持った部分を発表する。				
評価の観点・ 評価方法	授業の課題、ノートの作成状況。 定期考査の成績。				
使用教材	教科書に掲載されている、民法、商法等の条文を書き出し、六法全書から関係ある法を印刷し、全生徒に持たせてノートに書き取って覚えさせ、各学期毎の平常点とする。				
その他	六法全書の代わりに、プリント作成。 ワークブックの代わりに、プリント作成 } 補助教材				

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	第1章経済活動と法 第2章権利、義務と財産権	・経済活動における法の役割。・法の意義と体系。・経済環境など社会変化と法。・権利、義務とその主体。 ・自然人、法人の権利能力。	8	われわれの生活は法律関係で成り立っている。その法律関係は即権利、義務関係である。その意義、関係そして主体について学習し理解させる。	始業式
5	第3章財産権と契約 そしてその保護	・物と財産権 ・財産権と契約	7	財産権の変動、権利の発生、変更、消滅はほとんど契約による。その契約について理解を求める。この題目の学習の中核的部分の学習であることを念願に理解させる。	中間考査
6	〃	・物の売買 ・物の貸借	7	売買の実行に伴い、目的物の所有権はいつ移転することになるか、第三者への対抗要件など所有権の移転に伴う諸問題を学習させる。	
7	〃	・契約によらない財産権の変動 ・時効の制度	6	契約、相続以外に財産権の権利関係を変動させる制度としての時効について、その制度の趣旨や内容のすべてにわたって理解させる。	期末考査 終業式
8	〃	・財産権の保護	3	財産上の権利が第三者に侵害されたり債権の本旨にもとずく履行がない場合などに権利者はどのようにし自己の権利を守り実現していくのか権利義務関係の知識を理解させる。	始業式
9	〃	・物件の保護 ・債権の保護 ・債権の担保	9		
10	第4章企業活動に関する法	・不法行為 ・企業活動の主体 ・営業活動の自由と制限 ・株式会社と法	7	公益や消費者利益いっそうの公平さの追求のため、営業について開始の時、営業の方法について制限のあることを理解させる。	中間考査
11	第5章社会生活に関する法	・手形・小切手と法 ・消費者と法－かしこい消費者であるために。	8	手形行為、小切手行為の概念を具体例で理解させる。独立の原則、偽造、変造、代理など。	期末考査
12	〃	・生活に身近な特殊売買	6	今日われわれの生活に重要性のある生活的存在として割賦販売、訪問販売通信販売がある。	終業式
1	〃	・消費者信用 ・労働と法 ・働く者の福祉	6	民法の特別法としての労働三法について理解させる。関連して就業規則、労働協約にも及ぶ。	始業式 卒業考査

教科名	商業	科目名	商品開発	単位数	3単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 ビジネスコース	履修形態	必修	授業形態	分割授業
科目の目標	商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解させる。また、商品の企画・開発の中から流通活動を行う能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	市場で売られ、消費者に喜んで購入される商品を開発する仕組みや手順を学習することで、ビジネスの主役である商品が実際どのように企画され、生産され、消費者に購入されるにいたるかを学ぶ。				
学習方法	教科書に沿って進めていき、必要に応じて視聴覚機材を活用させながら理解させていく。				
評価の観点 ・ 評価方法	規定に従い、中間・期末の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については授業中の態度・姿勢・提出物の状況を客観的に判断し、20点満点で評価する。				
使用教材	実教出版 「商品開発」				
その他					

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	商品と商品開発	商品の多様化 商品開発の意義と手順	10	商品の成り立ちおよび何を商品として考えるのかについて理解させる。	始業式
5	商品の企画	環境分析 商品開発の意思決定と開発テーマの決定	9	環境分析の意義について認識させる。	中間考査
6	商品の企画	市場調査 商品コンセプトの立案と商品企画書の作成	9	市場調査の内容を認識させ、資料調査実態調査の二つの市場調査の方法について理解させる。	期末考査
7	商品の開発	商品の仕様と詳細設計 試作品の作成と評価	8	商品仕様と仕様書に基づいた詳細設計とその評価について理解させる。	終業式
8	商品の開発	開発商品のテスト	5	機能テストや消費者テスト、市場テストなど開発商品に関するテストの方法について理解させる。	始業式
9	商品の開発	事業計画の立案	12	生産計画、マーケティング計画、財務計画といった事業計画の流れとその内容について理解させる。	
10	商品開発とデザイン	デザインの基礎 パッケージデザイン	10	商品開発においてデザインが果たす役割について理解させる。	中間考査
11	商品開発とデザイン 商品開発と知的財産権	グラフィックデザイン 知的財産権の内容	10	グラフィックデザインの目的と社会性、種類について理解させる。	期末考査
12	商品開発と知的財産権	知的財産権の取得 知的財産権の活用	8	特許権、実用新案権、意匠権、著作権、商標権の概要とビジネスにおける活用の意義を理解させる	終業式
1	商品流通と流通を支える活動	流通の仕組みと市場 売買業者の商品計画	8	流通の役割、流通の仕組みとその変化、および流通系列化について理解させる。	始業式 卒業考査
2					
3					卒業式

教科名	商　業	科目名	課題研究	単位数	3単位
対　象　学　年	第3学年 ビジネス総合科 生活福祉コース	履修形態	選択	授業形態	一斉授業
科目の目標	職場において必要とされるマナー、大人としての嗜みについて、2年時に学習したビジネスマナーの内容をより深く学習するとともに、社会に出る直前の生徒に、労働法により守られている労働者の権利について基本的知識を身につけさせる。				
学習内容の概要	秘書検定2級の内容を通じて働く上で必要な知識、技術、判断力を身につけさせる。 労働法の内容を取り扱い、労働者の権利が法的な観点からどのように守られているかを理解させる。				
学　習　方　法	座学による学習。単元ごとに問題を与え、理解度を図る。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期、二学期、三学期とも定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点は日常の服装・授業態度・意欲・提出物の状況・理解度等で評価する。				
使　用　教　材	早稲田教育出版『秘書検定2級実問題集』、プリント 自主教材テキスト『仕事と労働法』、プリント				
そ　の　他	原則的に補習は行わない。 秘書検定2級取得を目指す。				

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	・必要とされる資質 ・職務知識	仕事をするときの心構え 機転を利かして実践する能力 求められる身だしなみ 職務に対する心構え	10	秘書検定2級に出題されるケースを通じて様々な場面についての適切な行動、不適切な行動を理解させる。	始業式
5	・一般知識 ・マナー接遇 ・技能	経営に関する知識 接遇マナーの実際 話し方・聞き方 敬語の使い方 電話の応対 報告の仕方	9	4月に引き続き秘書検定2級に出題されるケースを通じ、様々な場面についての適切な行動、不適切な行動を理解させるとともに電話応対、来客応対時の適切な行動、言葉遣いを理解させる。	中間考査
6	・技能	文書の取り扱い 資料・情報管理 環境整備	9	社内外、マル秘、メモなど様々な文書の取り扱い方を理解させるとともに資料管理、情報管理の仕方について理解させる。	期末考査
7	・技能	慶弔	8	慶事、弔事における金子包みの書き方について様々なケースを踏まえて取り扱い実際に書かせる。	終業式
8	・労働基準法とは	労働基準法と労働法	5	労働基準法の概略について理解させる。様々な労働法について理解させる。	始業式
9	・労働者とは？使用者とは？ ・労働契約 ・就業規則	労基法上の労働者、使用者 労働契約とは 就業規則の作成について	12	労基法に定める労働者、使用者の違いについて理解させる。法的な観点から労働契約、就業規則について理解させる。	
10	・労使協定と労働協約 ・内定と試用期間 ・賃金	労使協定とは 内定とは 賃金とは	10	労使協定、労働協約の概略について理解させる。 内定、試用期間について理解させる。 賃金支払の5原則等について理解させ	中間考査
11	・労働時間と休憩 ・休日と休暇 ・労災保険	労働時間について 法定休日、年次有給休暇につい 各種給付について	10	労働時間と36協定について理解させる。 法定休日や年次有給休暇の概略について理解させる。 労災保険の各種給付、通勤災害について理解させる。	秘書検定 期末考査
12	・労働組合 ・人事異動	労働組合とは 人事異動の種類	8	労働組合と労働三権について理解させる。人事異動の種類について理解させる。	終業式
1	・懲戒処分	懲戒処分の種類	8	各種懲戒処分の種類とその内容について理解させる。	始業式
2			10		期末考査
3			9		終業式

教科名	商業科	科目名	課題研究	単位数	3　単位
対象学年	第 3 学年 ビジネス総合科 ビジネスコース	履修形態	選択	授業形態	一斉授業
科目の目標	「ビジネス基礎」の学習を踏まえ、経済の3主体（家計・企業・政府）の経済活動の関わり合いや市場のあり方について、具体的事象や事例を通じて学習する。 また、社会に出る直前の生徒に、労働法により守られている労働者の権利について基本的知識を身につけさせる。				
学習内容の概　要	統計資料などを提供し、経済の3主体と経済活動の関わり合いや市場の仕組みについて理解を深める。 労働法の内容を取り扱い、労働者の権利が法的な観点からどのように守られているかを理解させる。				
学習方法	生徒たちが現在関わっている、もしくは将来的に関わるであろう経済活動や市場の仕組み、将来的に関わるであろう労働者の権利について、一つ一つを具体例を取り上げ、生徒の視点から理解できるように指導する。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1・2・3学期とも定期考査の考査点と平常点、出席点で評価する。平常点は授業態度、授業への意欲、取り組む姿勢、提出物などで評価する。				
使用教材	自主教材				
その他	提出課題の一部にレポートを課す事もある。				

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	第1章 市場と経済	イントロダクション 資源配分の仕組み	10	・市場に成立について理解し、流通の発展段階について考察させる。 ・資源配分メカニズムについて基本的な考え方を理解させる。	始業式
5		現代の市場経済とビジネス	9	・サービス経済化、情報化、国際化について基本的な知識を習得させる。　・ベンチャービジネス、金融市場について基本的な知識を習得させる。　・統計資料などから必要な情報を読み取らせる。	中間考査
6	第2章 需要と供給	需要の概念と需要の変化 供給の概念と供給の変化	9	・需要曲線や需要の弾力性など、基本的な知識を習得させる。 ・供給曲線や限界費用など、基本的な知識を習得させる。 ・統計資料などから必要な情報を読み取らせる。	期末考査
7			8		終業式
8	労働基準法とは	労働基準法と労働法	5	・労働基準法の概略について理解させる。 ・様々な労働法について理解させる。	始業式
9	労働者とは？使用者とは？ 労働契約 就	労基法上の労働者、使用者 労働契約とは 就	12	・労基法に定める労働者、使用者の違いについて理解させる。 ・法的な観点から労働契約、就業規則について理解させる。	中間考査
10	労使協定と労働協約 内定と試用期間 賃金	労使協定とは 内定とは 賃金とは	10	・労使協定、労働協約の概略について理解させる。 ・内定、試用期間について理解させる。 ・賃金支払の5原則等について理解させる。	
11	労働時間と休憩 休日と休暇 労災保険	労働時間について 法定休日、年次有給休暇について 各種給付について	10	・労働時間と36協定について理 ・法定休日や年次有給休暇の概略について理解させる。 ・労災保険の各種給付、通勤災害について理解させる。	期末考査
12	労働組合 人事異動	労働組合とは 人事異動の種類	8	・労働組合と労働三権について理解させる。 ・人事異動の種類について理解させる。	終業式
1	懲戒処分	懲戒処分の種類	8	・各種懲戒処分の種類とその内容について理解させる。	始業式
2			10		期末考査
3			9		終業式

教科名	商業	科目名	課題研究	単位数	3 単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 生活福祉コース	履修形態	選択	授業形態	分割授業
科目の目標	この科目は介護演習や事例研究などの学習をとおして、専門的な知識・技術の深化・総合化を図るとともに、 実践的に学習することにより課題解決の能力や自発的・創造的な学習態度を育成することを目標とする。				
学習内容の概　要	福祉のなり立ちと仕組みについて学び、また、コミュニケーション技術を高めるために手話や点字に関する 知識を深めていく。				
学習方法	テキストのみではなく、関連する資料・VTRの使用及び外部講師等による体験学習を通し、生徒に興味・関心を 持たせながら、役に立つ知識や技術を身につけさせる。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点20点は授業態度や 意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	VTR（やさしくわかる介護技術シリーズ）一橋出版				
その他					

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	・暮らしやすい生活環境をめざして	・少子高齢社会と共生社会への道	11	・少子高齢社会の問題点をさぐり、今後私たちがどんなことに取り組むべきか考える。	始業式
5	・健康と自立をめざして	・高齢者の健康と自立 ・障がい者が生活の不自由を克服する道	6 5	・自立生活に必要な事柄を学習する。	中間考査
6	・子どもの福祉 ・安全・安心・快適な住まい	・少子化対策について ・児童福祉政策について ・生活行為別に見る安全・安心・快適なすまい	4 4 4	・子育てのための政策を知る ・快適に住まうためにどういう工夫ができるか考える。	県総体 期末考査
7	・バリアフリーとユニバーサルデザイン ・手話	・ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰとﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝを考える ・手話による自己表現	6 5	・バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを知り、町のどのような所でどのように工夫されているかを知る。 ・手話で自分を表現する	期末考査 スポーツ祭 終業式
8	・バリアフリーとユニバーサルデザイン	・生活を支えるさまざまな用具	3	・福祉用具について、実物を用いながら学習していく。	始業式
9			13		
10	・安心できる住生活とまちづくり	・ライフスタイルの多様化と住まい ・安心して暮らせるまちづくり	7 6	・多様化している住まい方について学習する。 ・大人も子供もくらしやすい街づくりについて考える	学校祭 中間考査
11	・食生活の改善	・高齢者の食生活の改善方法を考える	13	・高齢者の食生活の改善法を考え、実践してみる。	期末考査
12	・点字	・点字の打ち方、読み方	11	・点字の意味を学習する。 ・点字の打ち方と読み方が違うことを理解する。 ・点字の打ち方を知る。	期末考査 終業式
1	・点字	・点字の打ち方、読み方	10	・文章を打つ時のルールを学習する。	始業式 卒業考査
2					
3					卒業式

教科名	商業	科目名	課題研究	単位数	3 単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 生活福祉コース	履修形態	選択	授業形態	分割授業
科目の目標	被服構成の基礎、被服材料の特徴などに関する知識と技術を習得させ 被服を創造的に制作する能力と態度を育てる。				
学習内容の概　　要	制作を通じて、道具の適切な扱い方や基礎的な裁縫技術の習得を目指す。				
学習方法	関連する資料・VTRの使用及び外部講師等による体験学習を通し、生徒に興味・関心を 持たせながら、役に立つ知識や技術を身につけさせる。				
評価の観点・ 評価方法	ファッション造形への関心、意欲、態度、技能、知識、理解など観点別に評価する。 規定に従い、1学期･2学期･3学期とも作品点と平常点と出欠点で評価する。				
使用教材					
その他					

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	被服構成 被服材料	・着心地のよい衣服をつくるためには，人体の構造や機能，動作時の変化に対応したゆるみ，性別や年齢による体型の変化等を考慮しなければならないことを理解する。	12		始業式 入学式 新入生合宿
5			12		中間考査
6	和服の製作 ゆかたの製作	くりこし 背縫い	12	・簡単な和服の製作を通して平面構成衣服についての理解を深め，基本的な知識・技術を習得する。	県総体 期末考査
7		おくみつけ わきぬい 裾縫い えりつけ	11		期末考査 スポーツ祭 終業式 夏期補習
8			3		始業式
9		そでつけ	12		
10	洋服の制作 パジャマズボンの制作	裁断・しるしつけ	12	・下半身をおおう衣服の構成と動作への適応について理解をする。	体育祭 中間考査
11			12		文化祭 期末考査
12	パジャマ上着の制作	裁断・しるしつけ 肩を縫う えりつけ そでつけ	10	・上半身をおおう衣服の構成と動作への適応について理解する。	期末考査 終業式
1		わきを縫う すそのしまつ	9		始業式 推薦入試 卒業考査 一般入試
2	・エピローグ、まとめ	・まとめ	3	・1年間を振り返る。	期末考査
3					卒業式 終業式

教科名	家庭	科目名	子どもの発達と保育	単位数	2 単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 生活福祉コース	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
科目の目標	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	1、子どもの発達の特性　2、子どもの発達の過程　3、子どもの生活　4、子どもの保育　5、子どもの福祉				
学習方法	・教科書を基にした講義や保育に関する実習を通して、子どもの心身の発達の特性や過程及び保育に関する知識や技術の習得を目指す。 ・授業で身に付けた保育に関する知識や技術を保育体験実習や日常生活での子どものふれあいの中で生かし、子育て支援に寄与する能力と態度を養うことを目指す。				
評価の観点・方法	・評価の観点は①発達と保育への関心・意欲・態度、②生活課題を主体的に解決するするための思考・判断、③基礎的・基本的な技術の習得、④知識・理解の4項目とする。 ・評価の方法は、規定に従い考査の成績とノート・プリント提出状況、実習への参加や態度などを各学期ごとにまとめる。 また、授業中の学習態度・出席状況について考慮し、総合的に評価する。				
使用教材	・子どもの発達と保育（実教出版）　・課題プリント				

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	子どもの発達の特性	1、発達と乳幼児期の意義 2、発達と保育環境 3、児童観と発達観	6	・人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であること、親を中心とした身近な人とのかかわりにより心が安定し、考え方・感じ方・行動の仕方などが発達していくことを理解する。 ・児童観、発達観は時代背景などにより変化していること、子どもの人権が保障されるようになった経過を理解する。	始業式
	子どもの発達の過程	1、子どもの発育	10	・胎児の発育について理解し、生命誕生にかかわる母体環境の重要性を知る。	
5				・乳幼児の身体発育の特徴と傾向、生理的特徴、養護の重要性を理解する。 ・発育の評価方法を学び、乳幼児期は発育の個人差が大きいことを理解する。	中間考査
6		2、子どもの精神発達	4	・発達における方向性や順序性の共通性を理解する。 ・精神発達の特徴を学び、乳幼児期が人格形成上重要な時期であることを理解する。 ・精神発達のためには、外界からの刺激、特に保育者からの働きかけと意欲を高める環境作りが大切であることを理解する。	
		3、人間関係の発達	3	・乳幼児期は、特に基本的人間関係の樹立のために「愛着」が重要であり、子どもの「泣く」「笑う」などの行動に適切にこたえることの大切さを理解する。 ・家族や友だちなど多くの人とのかかわりによって人間関係を広げ、自立し社会的な態度を身につけていくことを理解する。 ・「第一反抗期」と「自我」について考え、子どもの問題行動と家庭環境とのかかわりを理解する。	進路合宿
	子どもの生活	1、生活と養護	12	・乳幼児の生活の特徴を学び、健康を保持増進し、順調な成長を促す上で、発育・発達に応じた養護が必要なことを理解する。	期末考査
7				・乳幼児の食生活は発育や発達に及ぼす影響が大きいことを学び、母乳栄養や離乳食の重要性を理解する。	終業式
8				・乳幼児の衣服や寝具について、身体的特徴を踏まえ、何を選択したらよいか理解する。	始業式
9		2、子どもの遊び	5	・乳幼児は遊びを通して発育・発達することを理解し、保育者が発達に合わせて遊びをはたらきかけることの大切さを学ぶ。	
		3、生活習慣の形成	4	・生活習慣形成の意義と重要性を理解し、乳幼児の個人差に配慮すること、基本的な生活習慣を身につけるためには、家族や保育者の援助が必要なことを学ぶ。 ・社会的生活習慣は、社会のルールや、人とのかかわりの中で身につけていくことを理解する。	
10		4、健康管理と事故防止	8	・日常の健康状態の観察など、乳幼児の健康を守るための保護者の役割、乳幼児の病気の特徴や定期健康診査、予防接種などについて理解する。 ・乳幼児の成長段階における事故の実態と原因などを学習し、安全教育のために保育者が努めなければならないことを理解する。	中間考査
	子どもの保育	1、保育の意義と重要性	2	・保育の目標は、適切に養護しながら教育的にかかわることであり、子ども自身の成長・発達と援助、養護することであることを理解する。 ・子どもが育つ環境の変化を資料などをもとに学び、子どもにとって望ましい環境とは何かを考える。	学校祭
11		2、家庭保育と集団保育	2	・家庭保育と集団保育のそれぞれの特徴や役割を学び、子どもの成長・発達に両方が必要であることを理解する。 ・幼稚園と保育所・認定こども園について学び、集団保育の課題について理解する。	
		3、保育の方法	10	・集団保育の実習を通して、乳幼児の生活や行動などを観察し、適切なかかわり方を身につける。	期末考査
12	子どもの福祉	1、子どもの福祉	3	・児童福祉の理念や法律、制度について学び、単に保護するのみではなく、次代を担う児童の健全育成を目的としていることを理解する。	終業式
1		2、子育て支援	3	・児童福祉機関や施設の種類と目的を学び、児童と家庭に対する社会的援助について理解する。 ・児童をとりまく環境の変化や子育て支援の現状を知り、子育て家庭に対する社会的支援を充実させる必要があることを理解し、子育て支援の課題と展望を考える。	始業式 卒業考査

教科名	家庭	科目名	フードデザイン	単位数	3 単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 生活福祉コース	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
科目の目標	栄養，食品，献立，調理，テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ，食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	1．食品の特徴　2．料理様式とテーブルコーディネート　3．フードデザイン実習				
学習方法	・教科書を通して，食生活に関する基本的な知識を身に付けるとともに，調理の実習を通して，食品の適切な扱い方や基礎的な調理技術の習得を目指す。 ・授業で身に付けた食生活に関する知識や技術を日常生活の中で生かし，日々の食生活の改善，充実に努める。				
評価の観点・評価方法	・評価の観点は①食生活への関心，意欲，態度　②食生活における課題を主体的に解決するために思考，判断　③献立，調理の基礎的，基本的な技術の習得状況　④知識，理解　の4項目とする。 ・評価の方法は，規定に従い考査の成績とノート，プリント提出状況，実習への参加，態度などを各学期ごとにまとめる。また，授業中の学習態度，出席状況について考慮し，総合的に評価する。				
使用教材	フードデザイン（実教出版），課題プリント				
その他	本科目は第2年学年で2単位，第3学年で3単位，合計5単位の履修となっている。				

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	食品の特徴	食品の特徴と性質 牛乳と乳製品 卵	 4 4	日常よく使用される食品について、食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化、また、それらの加工品について理解する。	始業式
	フードデザイン実習 （実習施設の使用状況により適宜実施）	フードデザイン実習①	3		
5		魚介類 肉類 豆類	3 3 2	和洋中それぞれの日常食の調理の仕方を知る 郷土料理について知る	中間考査
		フードデザイン実習②	3		
6		野菜類・いも類 くだもの類・海藻類・きのこ類 穀類	3 3 3		進路合宿
		フードデザイン実習③	3		
7		砂糖・種実類・油脂類 かんてん・ゼラチン・調味料・香辛料 し好食品・その他の食品	3 3 2		期末考査
		フードデザイン実習④	3		終業式
8		食品の生産と流通 食料資源と貿易の現状 食品の流通・食品の加工	4	食品の生産、流通、加工などの現状を理解し、輸入食品や様々な加工食品など多種多様な食品の中から、目的に応じて適切な選択ができるようにする。	始業式
9	料理様式とテーブルコーディネート	料理様式と献立 日本料理	4	日本料理、西洋料理、中国料理の料理様式について、特徴や献立構成を理解する。また、それぞれの様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーについて理解する。	
		フードデザイン実習⑤，⑥，⑦	9		
10		西洋料理	3	和洋中それぞれの日常食の調理の仕方を知る	学校祭
		フードデザイン実習⑧，⑨，⑩	9		中間考査
11		中国料理	3		
		フードデザイン実習⑪，⑫、⑬	9		
12		テーブルコーディネート テーブルコーディネートの要素	 2	食べる人の五感を満足させ、盛り付けや食器やテーブルクロスなどに配慮する必要があることを理解する。	期末考査
		食品の選択と調理 フードデザイン実習⑭，⑮	3 6	食品の多様化の背景や現状を知る。 正月料理の調理方法を理解する。	終業式
1		食品の衛生と安全 フードデザイン実習⑯，⑰	5 6	食中毒や食品添加物の種類や特徴を理解し、安全で適切な食品の選択や取り扱いができるようにする。 供応食の調理方法を理解する。	始業式 卒業考査
2					オリエンテーション・自由登校
3					卒業式

教科名	商業	科目名	課題研究	単位数	3単位
対象学年	第3学年 ビジネス総合科 ビジネスコース	履修形態	選択	授業形態	分割授業
科目の目標	この科目はビジネス総合科の生徒に対し、3年次において全商簿記検定1級（会計）を取得することを目標としている。				
学習内容の概要	企業会計についての知識・技能を習得し、検定試験を目標とした演習等において範囲の総復習と習熟を図る。				
学習方法	分野・段階別に学習して行き、各段階における学習効果の充実を図る。生徒へは、不明な点等の質問を積極的に行うよう指示し、啓発的な学習となるよう指導する。				
評価の観点 ・ 評価方法	規定に従い、中間・期末の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点については授業中の態度・姿勢・提出物の状況を客観的に判断し、20点満点で評価する。				
使用教材	ア．実教出版 「簿記実務検定　模擬問題集　1級会計」				
その他	補習はクラスの進度・習熟度について判断し、必要に応じて行う。				

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学　習　内　容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	資産 負債	流動資産・その他の資産 固定資産・投資その他の資産 負債の意味と分類 流動負債 固定負債	10	各資産の意味・分類・評価を理解し、記帳法を学習する。	始業式
5	負債 純資産	固定負債 資本金 資本準備金 利益準備金	10	各負債の意味・分類を理解し、記帳方法を学習する。資本の意味・株主資本の分類と内容を学習する。	
6	貸借対照表	貸借対照表の意味と作成上の原則	14	報告式の貸借対照表の作成方法を学習する。	全商簿記検定 期末考査
7	費用収益の認識基準	費用・収益の認識の違い	10	損益計算を正しく行うために、一定期間に発生した費用と収益をいかに認識し測定するか学習する。	終業式
8	損益計算書	損益計算書の意味と作成上の原則	4	報告式の損益計算書の作成方法を学習する。	始業式
9	損益計算書 連結会計	損益計算書の意味と作成上の原則 連結会計の概要 連結貸借対照表の作成	15	報告式の損益計算書の作成方法を学習する。 連結貸借対照表の作成方法を学習する。	
10	連結会計 総復習・演習	連結会計の概要 連結貸借対照表の作成 模擬問題 過去の検定問題	14	連結貸借対照表の作成方法を学習する。 総復習を行うことによって、学習内容を整理・理解する。	中間考査
11	総復習・演習	模擬問題 過去の検定問題	13	総復習を行うことによって、学習内容を整理・理解する。	期末考査
12	総復習・演習	模擬問題 過去の検定問題	10	演習を繰り返し行うことで、検定試験の合格を目指す。	終業式
1			9		始業式 卒業考査 全商簿記検定
2					
3					卒業式